【血液検査の見方】

※一つの検査結果だけを見て判断するのではなく、様々な検査結果から判断する必要があります

おもな検査目的	検査項目名	和名	
肝機能	AST	GOTともいう	肝臓や心臓の臓器に障害があると上昇します
	ALT	GPTともいう	肝臓や心臓の臓器に障害があると上昇します
	ALP	アルカリフォスファターゼ	肝臓や胆道、骨の疾患、小児も高値を示します
	γ－GTP		アルコール性肝障害に敏感に反応し上昇します
	LDH		肝臓や心臓、血液細胞などに異常があると高くなります
	T-Bil	総ビリルビン	黄疸や肝障害のときに高くなります
	ALB	アルブミン	肝臓で作られるたんぱく質で、栄養状態も反映します

腎機能	BUN	尿素窒素	腎機能が悪くなると高くなります
	CRE	クレアチニン	
痛風	UA	尿酸	高くなると痛風になりやすく、腎機能の低下でも高くなります

膵臓の機能	AMY	アミラーゼ	すい臓や唾液腺の疾患で上昇します

栄養状態	TP	総蛋白	肝臓や腎機能の傷害で変動し、栄養状態も反映します
	ALB	アルブミン	肝臓でつくられるたんぱく質です、栄養状態も反映します

糖尿病	GLU	血糖（グルコース）	食事の影響を大きく受けますが、糖尿病では高くなります
	HbA1C	ヘモグロビンA1C	過去1～2ヵ月間の平均血糖値を反映します

脂質状態 （動脈硬化）	T-CHO	総コレステロール	動脈硬化や虚血性心疾患の診断、経過に有用です
	HDL-C	HDLコレステロール	善玉コレステロールで低値の場合は動脈硬化や虚血性心疾患に注意が必要です
	LDL-C	LDLコレステロール	悪玉コレステロールで低値の場合は動脈硬化や虚血性心疾患に注意が必要です
	動脈硬化指数		（LDL-C÷HDH-C）=2.0以下になるように努めましょう
	TG	中性脂肪	食事の影響を受けますが、多すぎと動脈硬化の危険因子です

体液のバランス	Na	ナトリウム	腎機能や脱水状態など体液中の電解質のバランスをみて 体全体の状態を診断します
	K	カリウム	
	CL	クロール	

血清鉄 （貧血）	Fe	血清鉄	鉄欠乏性貧血で低下します
	UIBC	不飽和鉄結合能	鉄欠乏性貧血で上昇します

心臓・筋肉	CPK（CK）		筋肉内にある酵素で、高いときは筋肉の細胞が壊れたことを意味します 激しい運動後も高くなります

炎症 （感染など異物による起こる体の反応）	CRP	C反応性蛋白	炎症があると増えます。　健常人では0.3以下です
	WBC	白血球	身体に細菌が感染し炎症が起これば増減します

貧血の検査	RBC	赤血球	数値の低下で貧血の診断ができます。 総合的に貧血の原因が推測できます
	Hb	ヘモグロビン量	
	HCT	ヘマトクリット値	
	MCV	平均赤血球容積	
	MCH	平均赤血球ヘモグロビン量	
	MCHC	平均赤血球ヘモグロビン濃度	

止血検査	PLT	血小板低数	数が少ないと出血しやすくなります、止血機能をみています
	PT	プロトロンビン時間	血液の凝固能力をみています。経口抗凝固薬 （ワーファリンなど）の治療モニターとして使われる視標です
	PTINR	プロトロンビン時間標準比	
	PT活性%		

甲状腺機能	TSH	甲状腺ホルモン	脳下垂体から分泌される甲状腺を刺激するホルモンです
	FT3	フリーT3	甲状腺ホルモンです　甲状腺ホルモンの全身への作用の程度をしらべます
	FT4	フリーT4	甲状腺で作られるホルモンで、甲状腺がホルモンを作る能力をみています

腫瘍マーカー	AFP		肝臓など　　良性の病気でも高くなることもあります
	CEA		消化器など　　良性の病気でも高くなることもあります
	CA19-9		胆嚢・胆管・すい臓など　　良性の病気でも高くなることもあります
	PSA		前立腺　良性の病気でも高くなることもあります

＜尿検査＞

尿定性 尿に含まれている成分を調べています。ｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ検査です。	比重		尿の濃縮度がわかります
	PH		尿の酸性・アルカリ度を表します
	蛋白定性		尿中の蛋白の有無・腎機能のスクリーニング検査です
	糖定性		尿中の糖の有無・糖尿病のスクリーニング検査です
	ケトン体		長期の欠食や下痢、糖尿病などで陽性になりやすくなる
	ﾋﾞﾘﾙﾋﾞﾝ定性		肝機能のｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ検査です
	潜血		尿路（腎臓・尿管・膀胱）からの出血がわかります
	ｳﾛﾋﾞﾘﾉｹﾞﾝ		肝機能のｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ検査です